

年頭の挨拶 ～統合運用態勢の更なる強化～

統合幕僚長 陸将 山崎 幸二

新年おめでとうございます。

日本郷友連盟の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと存じ上げます。旧年中は防衛省・自衛隊に対し、格別のご厚誼を賜り、誠にありがとうございました。

自衛隊の活動や取り組みは、皆様のご理解・ご協力によりなし得たものであると認識しております。日本郷友連盟の皆様改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援をお願い申し上げます。

現在の我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増しており、周辺国による軍事力の更なる強化や軍事活動の活発化の傾向は依然として顕著であります。加えて、国家間の戦略的競争が一層顕在化しているところです。

中国は、国際社会での存在感をより高めるべく海外における港湾等の活動拠点の確保や、軍事拠点化の推進、軍事力の近代化、「A2/A D（接近阻止／領域拒否）」能力の強化などを図っております。また、尖閣諸島周辺においては、中国海警船がほぼ毎日接続水域において確認されるとともに、領海への侵入を繰り返しています。一方、昨年2月には国際法との整合性の観点から問題がある規定が含まれる海警法を施行したほか、ロシアとの共同による艦艇や航空機の活動の活発化など、軍事的連携の強化が顕著となっております。更に、国内においては台湾への軍事的圧力を強めるなど、情勢はますます深刻化しています。

北朝鮮は、昨年3月以降、計6発の弾道ミサイルを日本海へ発射するなど、依然としてミサイル関連技術及び運用能力の向上を図っていると見られ、我が国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威となっています。

ロシアは、核戦力を含む装備の近代化を推進し、極東地域へ最新装備を配備するとともに、新型兵器の開発等や新領域における活動を活発化させており、その動向を注視する必要があります。

このような厳しい安全保障環境の中、自衛隊は、各種事態に迅速かつシームレスに対応するため、平素から我が国とその周辺海空域において情報収集及び警戒監視を実施するとともに、戦闘機などの緊急発進により、対領空侵犯措置に万全を期して参りました。

国内においては、新型コロナウイルス感染症拡大に対する政府の取組として、昨年5月から約半年の間、自衛隊大規模接種センターを運営し、国民全体の接種数の約1%にあたる約196万人の方々に対するワクチン接種を行ない、我が国のワクチン接種の加速に貢献しました。

また、静岡県熱海市や長崎県雲仙市などに甚大な被害をもたらした昨年7月から8月の豪雨災害では、自衛隊は速やかに出動し、人命救助にあたるとともに、被災者の方々の心に寄り添いながら災害派遣活動を行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底しながら行われた東京オリンピック・パラリンピック

では、選手として参加した17名の隊員が目覚ましい活躍を見せるとともに、支援団員として参加した約8500名の隊員は、円滑かつ安全な大会運営に大きく貢献してくれました。

国外においては、新型コロナウイルス感染症への対策を行いつつ、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処や中東地域における情報収集活動を引き続き実施し、船舶の安全な航行を確保して参りました。また、シナイ半島における多国籍部隊・監視団でも、派遣された隊員が引き続き任務を継続しております。

更に、昨年8月には、アフガニスタンの情勢悪化に伴い、外務大臣からの依頼に基づく在外邦人等輸送のため、航空機、計4機を派遣しました。

各国との共同訓練や防衛協力・交流では、日米豪印の枠組みによる共同訓練などにより「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けた連携を更に強化させました。また、イギリスの空母打撃群やフランス、ドイツをはじめとする欧州各国のインド太平洋地域への艦艇派遣の機会を捉え、共同訓練を実施するとともに、様々な防衛協力・交流を行い、欧州各国との関係が「新たな段階」と表現するにふさわしい一年となりました。

昨年に引き続き、令和4年も、自衛隊は、我が国の防衛という使命を果たすべく、各種任務を完遂するとともに、統合運用態勢を更に強化していく所存です。

統合運用態勢の強化に当たっては、次の3点を重視して取り組んで参ります。

1点目は、統合の更なる発展による「抜本的な防衛力の強化」です。現下の安全保障環境に的確に対応するため、新たな国家安全保障戦略、防衛計画の大綱等の策定に向け、各種検討に着手しました。領域横断作戦の深化の必要性はますます高まっており、自衛隊としては、本年を「多次元統合防衛力」の構築に向け、領域横断作戦の更なる具現化を図っていくべき時期と捉えています。軍事力の質・量に優れた脅威に対する実効的な抑止及び対処を可能とするため、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域と従来の陸海空全ての領域における能力の融合が必要であり、新たな領域に係る態勢整備と全領域における能力向上に努め、防衛力の強化を図って参ります。

2点目は、「日米同盟の更なる強化」です。

日米同盟はこの60年余にわたり、地域の平和と安定の礎であり続けてきました。そして、国家間の競争が顕在化している

今、普遍的価値と戦略的利益を共有するアメリカとの更なる関係強化は、わが国の安全保障にとってこれまで以上に重要です。

昨年は、インド太平洋軍司令官及び在日米軍司令官とともに、南西方面の共同部隊訪問等を実施し、改めて離島防衛の重要性について日米の認識統一を図りました。また、米軍との間では、各種の協議、訓練、演習等を通じ、あらゆるレベルでの意思疎通と連携を強化しています。今後も自衛隊は、自らの防衛力を主体的・自主的に強化するとともに、米軍との共同による抑止力を有効に機能させ、隙のない態勢を構築し、あらゆる事態に適切に対応して参ります。

3点目は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現です。

インド太平洋地域は、世界人口の半数を擁する世界の活力の中核であり、重要なシーレーンが存在しています。法の支配に基づく自由で開かれたインド太平洋を実現し、地域全体の平和と繁栄を確保するためには、同盟国であるアメリカや同じ志を持つオーストラリア、インド、欧州及びアジア

アの国々と平素から連携を密にし、望ましい安全保障環境の創出に向け協働することが極めて重要です。防衛省・自衛隊は引き続き防衛交流、能力構築支援、共同訓練などの様々な取組を通じ、多角的・多層的な安全保障協力の推進に努めて参ります。

新年にあたり、時代の趨勢に適応し、国家、国民の皆様の負託に応えるため、陸海空自衛隊が一丸となり使命の完遂に引き続き尽力することをお誓いいたします。

郷友の皆様におかれましては、本年も引き続き自衛隊への変わらぬご協力とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が日本郷友連盟にとりまして、希望に満ちた輝かしい年となること、そして、会員皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。